

子どもと保護者との間の 強いパイプ役



左 西原 亜依美さん
Aimi Nishihara

右 田中 栄司さん
Eiji Tanaka

用瀬町ジュニア リーダーズクラブ



「やらされている」のではなく自らの意志で

「こんにちはーっ」。暑さを吹き飛ばしてしまおうほどの元気な声と笑顔で、彼らは迎えてくれました。

今回ご紹介する「用瀬町ジュニアリーダーズクラブ」は用瀬町地域の中学・高校生の有志で構成されるグループで、地域の子ども会行事のお手伝いや、小学生を対象としたキャンプ、クリスマス会などを自分たちで企画運営をしています。

活動は昭和59年から開始し、現在のメンバーは、中学生8人と高校生4人の12人で、そのうち女の子が9人。加入のきっかけは「楽しそうだから」、「姉や友だちに誘われて」、また副会長で用瀬中学校2年の西原亜依美さんは「小学校のときにキャンプに参加して、そのとき世話をしてくれたお兄さんやお姉さんがとてもやさしく、自分もそうなりたいたいと思ったし、いろいろな人とふれ合えることができると思ったから」などさまざま。学年もまちまちで

すが、みんなとても仲がよく、縦のつながりが希薄になっているとよく言われるなか、ここではその心配は皆無です。取材にうかがったのは、気温が30度を超える暑い日の午後。にもかかわらず、みんな元気いっぱい、市のキャンプ用テントを、多くの人が利用する夏休みを前に整備しよう、会場となっている用瀬町民会館に集まっています。14張りのテントを広げ、破れている部分がないかどうかを点検し補修。また部品などの数も確認。てきぱきと約

1時間ほどで終了しました。彼らの行動からは「やらされている」という姿は少しもなく、まさにボランティアそのものでした。

大人は終始オブザーバー

同クラブは年間を通して、各集落で行われる子ども会のイベントに出かけ、ゲームの指導などを行ったり河川敷のゴミ拾いをしたりしています。が、中でもいちばん大きな活動は夏休み中に行う小学生を対象としたキャンプです。彼らのキャンプは参加の取りま